＜パブリックコメントの実施結果＞

１　意見募集期間

令和５年１１月２７日（月）から同年１２月２６日（火）まで

２　意見の数

１３名（２５件）

※名古屋産業大学の学生方より

３　意見の内容と考え方

番号	頁数	御意見	市の考え方
１	３０	＜環境意識を啓発する「場」づくりについて＞ 家庭ごみの減量において大切なのは市民の取組であり、地域協働が欠かせない。静岡県掛川市のごみ減量が成功した要因の一つに啓発活動がある。その成功の要因は、元々掛川市に備わっていたコミュニティがあり、啓発する「場」があったことだと分析されている。この事例から、尾張旭市で活用できる「場」を考えると、本学が適切ではないか。本学には環境を学ぶコースがあり、環境のことを理解している学生も多いと思う。大学祭などの「場」を用いて、学生が環境に関するゲームやクイズなどを企画することで、子どもたちにも環境意識を啓発することができる。大学を使った啓発活動は、尾張旭市の強みになるのではないか。	子どもや若い世代への啓発については、ごみの減量に関わる重要施策と考えています。素案３９ページ基本方針１－№.１にあるとおり、市職員による出前講座にも力を入れていきたいと考えています。 具体的な啓発方法につきましては、名古屋産業大学との協働も踏まえ、今後の取組の参考とさせていただきます。

番号	頁数	御意見	市の考え方
2	３０ ３９	＜継続性のある啓発活動について＞ 北海道豊浦町では、容器包装廃棄物の排出抑制を促進しており、その中でも、地域の広報誌を活用した継続性のある啓発や自治会、学校等へのリサイクル情報の提供、イベント開催による啓発など、啓発活動が充実している。ごみ減量のためには、決められた目標分のごみを減らす直接的な取組も必要だが、啓発活動のような間接的な取組も必要だと考える。「継続性のある啓発」が最も重要になると思う。そのためには、豊浦町のように、地域のイベント、広報誌などを活用し、より積極的な啓発活動を行ってはどうか。	広報における定期的なごみ減量特集の掲載や、月に一度のごみ減量に関する「クルクルごみ減量通信」の発行を通し、継続性のある啓発に努めています。 今後は、こうした啓発活動を継続していくだけでなく、御意見にあるとおり、地域のイベントを活用した啓発なども検討していきたいと考えています。
3	３１	＜資源ごみの混入について＞ 燃えるごみ中の資源ごみ混入率について、現段階では２５％、つまり１／４が混入している。私も実際に資源ごみになるものを燃えるごみに捨てたことがあるため、分別のメリットに関する解説や分別の仕方のガイドブックなどを充実することが効果的ではないか。	燃えるごみ中の資源ごみ混入率については、改善すべく重要課題と捉えています。分別の仕方ガイドブックとしては、毎年、「ごみの出し方」パンフレットを全戸配布している他、お問い合わせの多い分別品目についてホームページ上で紹介するなどし、啓発に努めています。 分別におけるメリットにつきましては、市民の方にとって分かりやすく、分別を促せるような啓発方法を検討していきたいと思います。

番号	頁数	御意見	市の考え方
4	３１ ～ ３２	＜家電系の粗大ごみについて＞ 燃えないごみ、粗大ごみのうち、家電系は一部が資源化できるが、収集頻度が月１回で予約制のため、市民が出しにくいのではないか。札幌市で行われている小型家電リサイクルのように、公共施設や商業施設に回収ボックスを設置することで、買い物のついでにリサイクルができる。また、燃えるごみ、燃えないごみの分別回収を細かくできれば、一人一人の市民の環境意識も高まると考える。	本市につきましても、リサイクルひろばのほか、市役所、スカイワードあさひ、渋川福祉センター、東部市民センター、新池交流館ふらっとといった拠点施設において、「小型家電回収ボックス」を設置し、回収をしています。 素案４０ページ基本方針２－№.７にありますとおり、今後は拠点施設だけでなく、通常の集積所で排出ができるよう、運用の変更を検討していく予定です。 収集頻度等や商業施設での回収拠点の拡大につきましては、具体的な運用方法を検討する際の参考とさせていただきます。
5	３４	＜循環型生活研究会の活動について＞ 今の日本では、食べ残しや食べ切れない量を作って捨てたりするなど、大量の生ごみが排出されている。このようなことを改善するため、スーパーなどで野菜やお肉に何人分ですよという表記などをして工夫すると、食べる量が分かるので、ごみの減量に繋がるのではと思う。	事業者との連携も踏まえ、今後の研究課題とさせていただきます。
6	３９	＜発生抑制の取組について＞ 基本方針１の発生抑制で行っていることが詳しく書かれていないため、現在、どのような内容の施策を行っているのか記載して欲しい。	当該箇所は、次期計画（令和６年度～１５年度）における取組内容を記載しております。現在取り組んでいる施策等につきましては、素案資料編４ページから１２ページまで記載していますので御参照ください。

番号	頁数	御意見	市の考え方
7	３９	＜再利用の工夫について＞ ごみは、一つだけでなく、様々あるから工夫すればごみ減量効果が高まるのではと思う。例えば、ＹｏｕＴｕｂｅでノート作り、メモ帳作り、封筒作りなどの作り方の動画がアップされている。再利用すれば、ごみが減量できる。衛生用品も上手いこと工夫すれば再利用できる。掃除に使ったりすると、掃除用品を買わなくて済む。こうした事例のように工夫して再利用すれば、ごみの減量だけでなく、節約にもなると思う。	今後の取組や啓発活動における参考とさせていただきます。
8	４０	＜資源物の分別について＞ 北海道豊浦町における古着、古布のリサイクル活動「繊維リサイクル拠点」では、タオル類や毛布類、シャツ類などをいつでも回収できる場所を設置している。この事業は、住民にリサイクルを促す効果があるため、尾張旭市でも同様の事業を展開してはどうか。また、回収拠点に持っていく際、紙袋やビニール袋に入れず、不用な布で包むなどの啓発をすることで、さらなるごみ減量に努めることができる。	本市では、市役所駐車場南側に資源ごみ回収拠点である「リサイクルひろば　クルクル」を設置し、リサイクルの促進に努めています。 繊維類を持参いただく際は、袋等は必要なく任意の入れ物等で持参いただき、資源ごみのみを回収する運用方法となっています。 今後も引き続き、市民の方にとって使いやすい施設運営に努めて参ります。
9	４１ ～ ４２	＜燃えるごみの有料化の導入について＞ 北海道豊浦町では、燃えるごみ、燃えないごみに対して「ごみ処理手数料」を導入している。これにより、各家庭から排出されるごみの量が減少したので、尾張旭市でも導入してはどうか。また、この事業により、各家庭から排出されるごみが減少していくと思われるので、随時、費用の見直しを行い、将来的にはほぼゼロの費用で各家庭から排出されるごみを極力少なくすることを目標にしてはどうか。この事業の実施により、目標値以上のごみの減量が期待できる。	ごみの減量をするにあたり、指定袋の有料化は１つの手段ですが、市民の方への影響も大きい施策のため、慎重に検討していく必要があると考えています。 素案４１ページ№１３に「燃えるごみ有料化の導入についての検討」として記載をしているとおり、次の１又は２の状態になったとき、燃えるごみの有料化の導入について検討する予定です。 １．各年度の家庭系処分ごみ排出量の実績値が目標値を上回る年度が２年続いたとき ２．単年度の実績値と目標値の乖離が５％を超えたとき

番号	頁数	御意見	市の考え方
１０	４２	＜燃えるごみの有料化の導入について＞ 燃えるごみの有料化については、実行した方が良いと思う。燃えるごみを有料化すると、市民一人一人がごみを減らしていくと思う。ごみは、生活するうえでは必ず出るものだが、少しでも工夫すれば、ごみを減らすことができると思う。	ごみの減量をするにあたり、指定袋の有料化は１つの手段ですが、市民の方への影響も大きい施策のため、慎重に検討していく必要があると考えています。ですが、ごみの減量が順調に進まない場合は、以下のとおり有料化の検討を行う予定です。 素案４１ページ№１３に「燃えるごみ有料化の導入についての検討」として記載をしているとおり、次の１又は２の状態になったとき、燃えるごみの有料化の導入について検討する予定です。 １．各年度の家庭系処分ごみ排出量の実績値が目標値を上回る年度が２年続いたとき ２．単年度の実績値と目標値の乖離が５％を超えたとき
１１	５１ ～ ５２	＜食品ロスについて＞ 食品ロスの内容で、過剰除去（皮・葉・種）をする割合が高く、食品ロス削減の取組内容で、調理くずが出ないよう工夫している割合が少ない。いかに多くの人が野菜の皮を厚くむいたり、キャベツの葉をたくさん捨てているか。それについて言及がない。残留農薬が多く、表はむき取らないといけない。有機野菜ならば、皮も安心して食べられる。ただ減らそうとだけではなくて、無農薬・無化学肥料栽培を促進させることも重要だと考える。	御指摘のとおり、食品ロスの主な原因として過剰除去の割合は高いものの、調理くずが出ないよう工夫している割合は低い状況です。３キリ運動の一つとして推進していくこととしていますが、今後の取組において参考とさせていただきます。
１２	５６	＜食品ロス削減に関する動画配信について＞ 食品ロス削減に対する市民意識を高めるためには、さらに市民に活動をしてもらわなければならない。名古屋市は、食品ロスに関して名古屋を拠点に活動するアイドルグループらが動画配信をしており、尾張旭市も食品ロスに関して動画配信することで、さらに市民の活動を促すことができるのではと思う。	現在は、行政情報番組「あさチャン」を活用し、ごみの減量に関する動画配信を行っております。ＳＮＳを活用した動画配信など、更なる拡大に向けて、参考とさせていただきます。

番号	頁数	御意見	市の考え方
１３	５８	＜ＳＮＳ等を利用した情報発信について＞ 京都市では、食品の買い物、保存、調理に各段階での工夫を豆知識も交え、楽しく紹介するＷＥＢサイトを開設している。尾張旭市も、食品ロスを減らしていくためにできる工夫を学べるＷＥＢサイトを作り、ＳＮＳで情報発信をすることで、より多くの人に食品ロスについて考えてもらうと良いと思う。	ホームページや、市公式ＬＩＮＥを使用した取組の参考とさせていただきます。
１４	５８	＜エコクッキング教室について＞ ただ教室を開くだけでなく、定期開催にしたり、開催ごとに様々なテーマを扱ったりして、飽きのこないエコクッキング教室にしても良いと思う。テーマについては、日常の料理に役立てるものや、豆知識だったり、エコに関する様々なテーマを扱う。	本市では、エコクッキングを年２回程度開催しています。旬の地元野菜を利用して調理するなど、御参加くださった方には、大いに興味を持っていいただいています。他の講習もあるため、これ以上の開催は難しい状況ですが、取組の参考とさせていただきます。
１５	５８	＜エコクッキングについて＞ 東邦ガスや大阪ガスでは、クッキングスクールの講師が小学校でデモンストレーションなどをしている。学校の家庭科の調理実習の一環としてエコクッキングを実施してはどうか。素案では、レシピを配ることが位置付けられているが、レシピを配るだけでなく、実際に体験をさせた方が今まで以上にエコクッキングを認知させることができるのではないかと思う。	啓発物品としてはエコレシピの配布、そして、実践の場として素案５８ページ⑵－①に記載のあるとおり、エコクッキング教室も並行して実施していきたいと考えています。 学校での調理実習の際にも、エコクッキングを心掛けてもらえるよう、働きかけをしていきたいと考えています。
１６	５８	＜食品ロス削減の啓発について＞ 愛媛県では、食品ロス削減の啓発として、１週間の食品ロスの種類や量を記録して考えを深めるようなことを行っていた。これを参考に、食品ロス対策週間を実施してはどうか。食品ロスについて考えたり実行したりすることを習慣化する良いきっかけになると思う。	今後の取組の参考とさせていただきます。

番号	頁数	御意見	市の考え方
１７	５９	＜食べ残しによる食品ロスについて＞ 食品ロスの原因は様々だが、まずは食べ残しによる食品ロスが挙げられる。自分が食べられる分、または少量だけ取って様子を見れば、減量効果が高まるのではないかと思う。次に、まだ未開封だが賞味期限切れによる食品ロスが挙げられる。賞味期限が近い商品は、お店でセール販売されていて、直ぐに食べるなら安く購入できるし、お店も捨てずに済むからＷＩＮＷＩＮになる。	賞味期限が近い商品の購入を促す、「てまえどり」については、現在ホームページ等で周知していますが、市民への更なる周知啓発や、事業者との連携についても、重要な検討課題と考えています。いただきました御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。
１８	５９ ・ ６１	＜食べきれるだけの少量や小分けされた食品の購入について＞ 食べきれるだけの少量や小分けされた食品を購入することは、その食品を梱包しているプラスチックを排出してしまうと、ごみ削減に貢献することは難しいのではないか。プラスチックの代用品を開発活用してはどうか。	包装容器等は常に研究されており、軽量化やリサイクルなどによりごみ削減につながっています。 本市が素材などの研究開発をすることは難しいですが、新たな素材に期待したいと思います。
１９	５８	＜食品ロス削減について＞ 食品ロスについて、子どもの時から残すのは良くないことだと伝えるのが大事だと思う。また、皮のまま野菜を食べられるようにする努力と臭みを消すものなどが発案されると、フードロスが大幅に改善されると思う。難しいことだが、野菜の品種改良も大事だと思う。	ごみの減量や食品ロスについて、子どものころからの学習は重要と考えております。引き続き、座前講座やエコクッキングなど、様々なツールを使用して、周知啓発に力を入れていきたいと考えています。 いただきました御意見は今後の参考とさせていただきます。
２０	５９	＜「てまえどり」の促進について＞ 京都市では、「てまえどり」に加え、食品小売事業者が商習慣として定めている販売期限を見直し、賞味・消費期限の範囲内で従来よりも延長して食品を販売する「販売期限の延長」という取組をしている。尾張旭市でも、これを取り入れ、少しでも食品を買ってもらい、廃棄になる食品を減らして欲しいと思う。	今後の研究課題とさせていただきます。

番号	頁数	御意見	市の考え方
２１	５９	＜「てまえどり」の促進について＞ 小売店舗側だけで「てまえどり」を促進するには限界がある。セブンイレブンではｎａｎａｃｏポイントを付与したりしているため、市独自のポイント制度を作ってはどうか。そうすることにより、市全体で行われているという関心が生まれるのではないか。	各事業者で実施しているもので、市独自のポイント制度は考えていませんが、「てまえどり」について、事業者との連携を検討していきます。
２２	５９	＜フードバンク活動の充実について＞ 八王子市が行っているフードバンク活動を参考に、家庭だけではなく、農家などからも売れない食品を寄贈してもらってはどうか。	今後の取組の参考とさせていただきます。
２３	６１	＜企業やＮＰＯと協働した講習会について＞ 大分県では、企業やＮＰＯと協働した講習会が実施されている。これを参考に、尾張旭市内の会社が講習会等の会場となり、企業全体、さらには地域協働で市全体の食品ロスやごみ減量の対策について考える場を設けてはどうか。企業の活動の一環として行うことができれば、時間が無くて参加できないような人々の参加を促すことができるのではないか。	本市では、主に家庭向けの講習会を開催しており、これには賛同いただいた事業者と供に開催しているものもあります。 廃棄物に関して事業者向けの講習会は予定していませんが、今後の取組として研究したいと思います。
２４	６１ ～ ６２	＜食品ロス対策としてＷＥＢサービスについて＞ 東京都八王子市が「タベスケＨａｃｈｉｏｊｉ」というＷＥＢサービスを運用している。賞味期限が近いなどで安く購入することができ、朝、捨てられそうな安い野菜をネットで購入することができる。お店の料理を安く食べることもできるので、食品ロスの削減に効果があると思う。	今後の研究課題とさせていただきます。

番号	頁数	御意見	市の考え方
２５	６１ ～ ６２	＜生ごみの処理について＞ 東京都八王子市が取り組んでいるダンボールコンポストは、基材を入れた段ボール箱に生ごみを入れて堆肥を作るという方法で、ごみが植物を生育するための土づくりに役立つものに変わるので、大きくごみ減量をすることができる。さらに、八王子市では、ダンボールコンポストを定価で購入すると、生ごみ処理機の補助金申請をすることができる。	現在本市では、生ごみ処理機、コンポスト容器及び生ごみ発酵用密閉容器について、購入費の補助を行っています。また、市民団体に協力をいただき、発泡スチロール製の生ごみ堆肥化容器（ガボッジ君）を無料で提供しているほか、製作講習会を開催しています。